

鶏肉情勢

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年1月末実施)によると、2月の推計実績は処理羽数58,085千羽(前年比101.3%)、処理重量175.0千ト(同100.7%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.7%、処理重量は、0.3%下方修正された。寒さの影響で大腸菌症が発生するなど、農場によって生産成績にばらつきが出ているとのこと。処理羽数の前月計画からの減少に比べ、処理重量の減少値が少なかったことから、日齢を伸ばして重量を確保したことが伺える。</p> <p>(2) 3月の計画は処理羽数、処理重量とも前年をわずかに下回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数、処理重量とも関東地区、近畿・中国・四国地区、北部九州地区で前年を上回る見通しであり、北海道・東北地区、中部地区、南九州地区は前年を下回る見通しである。鳥インフルエンザの発生は、2月は5例、3月は6例と発生を抑えられているが、前年は5月まで発生しており、今後も予断を許さない状況である。 工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省3月30日公表の貿易統計によると令和5年2月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+2.7千トの47.1千トで、国別ではブラジルが+0.9千ト、タイで+2.2千トとなっている。前年同月の実績に対しては▲2.5千トとなった。米産の減少が続いているものの、タイ産・ブラジル産は安定した数量となっている。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、3月が49.1千ト(前年比108.8%)、4月が43.0千ト(前年比98.7%)となっている。3月は前月に比べ増加が予想される。ブラジル産の国内市場価格は徐々に上げ基調となっており、先物のオファーにおいても高値の話が聞こえている。他国への輸出量も増えているとの話があるので、今後の国内価格市場へどのような影響が起きるか注視していきたい。需要としては国産価格が依然として高値で推移している影響もあり、一定の需要は継続されることが予想される。タイ産は引き続き安定した入荷が予想されるが、現地価格は上昇傾向との話が聞こえており、国産ムネ肉への影響が考えられる。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲2.2千トの32.1千トで、国別では中国が▲2.8千ト、タイが+0.7千トとなった。前年同月の実績に対しては▲6.7千トとなり、前年比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は回復したが2月実績は減少となった。令和4年4月～令和5年2月累計では前年比102.5%となっている。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはコロナ前に戻りつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。</p> <p>(3) 財務省が3月30日に公表した貿易統計によると2月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より3.0%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より15.0%上昇した。国別ではブラジル産の価格が284円/kg(前月比31円安)、タイ産が338円/kg(同35円安)となっている(国別平均価格)。前月比で価格が下がり、前年比ではほぼ前年並みの状況である。ブラジル産は2月実績では下げ基調となっているが、国内市場価格は上げ基調となっている。先物については強気の価格が提示されているとの話が聞こえており、徐々に上昇傾向となることと予想される。タイ産についても現地価格が上げ基調になっているとの話が聞こえており、今後の国産鶏肉への影響に注視したい。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年2月の生鮮肉消費(購入)は数量3,961g(前年比91.1%)、金額6,219円(同102.1%)と、数量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,402g(同94.5%)・金額1,475円(同105.1%)・単価104.6円/100g(前年同月+10.5円)と、数量は前年を下回り、金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額11,478円(同103.4%)、外食が11,999円(同146.8%)となっている。あらゆる商品の値上げが相次ぐ中、相場高騰により鶏肉の店頭売価も上がり、買い控えが進んだと思われる。外食においては、行動制限もなく、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻りつつあると考えられる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年2月の食品売上高は全店ベースで前年比100.7%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同98.9%、既存店ベースは同97.3%となった。また、畜産部門の売上高は約1,101.2億円で全店ベース同100.9%、既存店ベース同99.3%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、前年の「まん延防止等重点措置」からの反動、相次ぐ商品・光熱費等の値上げによる節約志向の高まりに伴う買上点数の減少、前年より気温が高く推移し季節商材が伸び悩んだ、などの要因により苦戦が続いているとのこと。 畜産部門においては、精肉全般で、国産、輸入とも相場高が続き、価格の値上げ等により、買上点数の伸び悩みが続いている。週末の大型パックは好調であるが、価格が訴求できず販売に苦心しており、売上高は確保できても利益が取れない状況が続いているとのこと。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年2月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比105.4%の4.1千トとなった。うち国内品は同103.2%の3.3千トと前年を上回り、輸入品についても同115.1%の0.8千トと前年を上回った。</p>
在庫	<p>1. 令和5年2月</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産25.0千ト(前年比73.7%・前月差+0.6千ト)、輸入品128.1千ト(同99.1%・同+2.5千ト)と合計で153.1千ト(同93.8%・同+3.1千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、2月の出回り量は国産133.1千ト(前年比97.2%・前月差▲4.3千ト)、輸入品43.8千ト(同100.6%・同+0.8千ト)と合計で176.9千ト(同98.1%・同▲3.5千ト)となった。3月以降の国産在庫については、荷余り感が出てきたので、増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、3月・4月の出回り量は前年同月を下回ると予測されている。入荷量は、3月はタイ産ムネ肉の数量増加が見込まれること等から前年を大きく上回ると予測する。4月はブラジル産の減少も見込まれること等から、前年をわずかに下回ると予測する。</p>
相場	<p>1. 令和5年3月動向</p> <p>(1) 令和5年3月の月平均相場は、モモ肉799円/kg(前月差▲1円)・ムネ肉411円/kg(同▲3円)正肉合計で1,210円/2kgと前月を4円下回り、前年同月を263円上回った。モモ肉相場は月初804円、月末は794円となり(昨年は月初640円、月末625円で15円の下げ)、昨年の相場を大幅に上回った。 鳥の育成悪化により出荷調整を実施している産地もあるが、鳥インフルエンザの発生は抑えられ(3月国内6例発生)、販売の方も落ち着いてきたため、荷不足感はなくなってきており、逆に、荷余り感すら出てきた。モモ肉の凍結回しも増えてきたとの話も聞かれる。相場も緩やかな下落傾向にあるが、3月も引き続き高水準を維持した。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 4月の生産量は、ほぼ前年並みの計画である。しかし、鳥インフルエンザの発生が4月10日時点で今季国内26道県84例目まで報告されており、今後も拡大する恐れがある。また、南米でも野鳥での鳥インフルエンザの発生が確認され、アルゼンチン・ペルーでは家きんでの発生も確認されている。鶏肉輸出大国であるブラジルへの拡散が懸念される。 量販店は相場高の影響で国産モモ肉での価格訴求が出来ず、輸入モモ肉(解凍品)を価格訴求品として販売している店舗も多いと聞かれる。国産モモ肉は量販店での特売頻度が減り、凍結回しが増加傾向である。 加工原料は数量確保のため、輸入品に切り替える動きがあると聞かれるが、国産品は相変わらず引き合いは強い。 以上のことから、モモ肉相場・ムネ肉相場ともに下げのモモ肉相場月平均785円、ムネ肉相場月平均405円と予測する。</p> <p>(2) 3月に入り販売は落ち着き、昨年から減少していた冷凍品(在庫も積み増しの傾向である。量販店では輸入モモ肉解凍品を価格訴求品として販売する店舗も増えてきた。しかしながら、牛肉・豚肉の相場高騰、鳥インフルエンザの影響による親鳥の不足、輸入品の値上げ基調もあり、加えて、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は順調に推移すると思われる。下げ基調であるものの鶏肉相場は例年になく高水準で推移していくと思われる。</p>

実績											
生産状況 <span style="float: right;">単位: 千羽、千ト、%</span>											
	R4年累計		R5年2月推計実績		R5年3月計画		R5年4月計画		R5年5月計画		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
入雛羽数	774,648	100.1%	60,776	102.3%	63,838	99.9%	64,678	98.8%	63,922	101.5%	
処理羽数	737,283	100.4%	58,085	101.3%	65,095	99.6%	61,948	99.4%	64,047	102.9%	
処理重量	2,216.4	99.9%	175.0	100.7%	195.8	99.6%	186.3	99.1%	189.5	101.8%	
※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」											
輸入動向 <span style="float: right;">単位: 千トン、%</span>											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年9月	46.8	45.2	103.5	44.3	31.8	139.2	91.1	77.0	118.3	51.4	48.6
R4年10月	53.9	51.2	105.3	44.1	35.2	125.4	98.1	86.4	113.5	55.0	45.0
R4年11月	49.8	57.8	86.2	43.1	43.8	98.5	92.9	101.5	91.5	53.6	46.4
R4年12月	44.3	60.7	73.0	40.4	48.2	83.8	84.7	108.9	77.8	52.3	47.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年1月	44.4	53.8	82.5	34.3	43.2	79.4	78.7	97.0	81.1	56.4	43.6
R5年2月	47.1	49.6	95.0	32.1	38.8	82.7	79.2	88.4	89.6	59.5	40.5
※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
鶏肉の消費動向 <span style="float: right;">単位: グラム、円、%</span>											
履歴	数量			金額			相場(年別・暦年) <span style="float: right;">単位: 円</span>				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		モモ肉	ムネ肉	計	
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9		H27年	639	336	975
R4年9月	1,492	1,546	94.7	1,386	1,383	97.6		H28年	621	255	876
R4年10月	1,574	1,559	96.5	1,534	1,424	100.2		H29年	626	315	941
R4年11月	1,495	1,536	97.3	1,505	1,429	105.3		H30年	595	282	877
R4年12月	1,729	1,695	102.0	1,854	1,702	108.9		R元年	585	243	828
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7		R2年	614	269	883
R5年1月	1,491	1,563	95.4	1,559	1,450	107.5		R3年	641	313	954
R5年2月	1,402	1,483	94.5	1,475	1,404	105.1		R4年	662	348	1,010
※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)											
在庫状況(推定) <span style="float: right;">単位: 千トン、%</span>											
履歴	国産			輸入品			合計				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年9月	25.8	33.8	76.5	121.2	107.6	112.7	147.1	141.4	104.0		
R4年10月	25.2	34.7	72.7	127.5	108.2	117.8	152.7	142.9	106.9		
R4年11月	23.4	33.6	69.7	129.9	114.7	113.3	153.3	148.2	103.4		
R4年12月	24.6	35.5	69.5	124.2	114.4	108.5	148.8	149.9	99.3		
R5年1月	24.4	35.1	69.6	125.6	123.2	101.9	150.0	158.3	94.8		
R5年2月	25.0	33.9	73.7	128.1	129.3	99.1	153.1	163.2	93.8		
※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
相場(月別) <span style="float: right;">単位: 円、%</span>											
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年12月	773	641	120.6	417	340	122.6	1,190	981	121.3		
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9		
R5年1月	805	649	124.0	422	330	127.9	1,227	979	125.3		
R5年2月	800	646	123.8	414	323	128.2	1,214	969	125.3		
R5年3月	799	631	126.6	411	316	130.1	1,210	947	127.8		
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7		
R5年4月	(785)	622	126.2	(405)	315	128.6	(1,190)	937	127.0		
R5年5月	(770)	624	123.4	(405)	321	126.2	(1,175)	945	124.3		
※()は見通し											